

県民公開講座開催

平成16年12月11日(土)協会初となる県民公開講座が徳島県療養病床協会との合同開催で行われました。当日は大塚智子会長と徳島県療養病床協会会長でもある武久洋三副会長が講演され、一般の方々を含む330名の方々が参加され、講演に熱心に耳を傾ける姿が多く見られました。

ケアマネジャーって 何をする人？

講 師 徳島県介護支援専門員協会
会 長 大塚 智子 氏

ケアマネって何をする人？ ケアマネジャーは、一人の利用者の幸せな生活の為に、サービスを提供する様々な専門職や家族・友人が、どのように役立てるかを考えて、係る人々を結び付け、一人の利用者の人として生きる力を引き出していく役割を持っています。

ケアという言葉を日本語に訳すとき、ともすれば、介護、世話と考えがちですが、人として生きていくこと、生活への支援と考えれば、ケアマネジャーの役割は、非常に幅広いものとなりますが、現実的には、現在の制度では、担当数等、対応数などケアマネは激務の現状にあります。

居宅での自立した生活継続の為に、また、要介護状態の軽減または、悪化防止の予防に資することを目的に、適切なサービスが総合的・効果的に提供されるように、利用者支援する。具体的には

プランニング機能 (計画を立てる)

マネジメント機能 (介護サービスの給付管理と適切なサービスの効果的利用のマネジメント)

調整機能 (サービス相互間の調整)

相談機能 (利用者の相談にのる)

権利擁護機能 (利用者の権利を守る)

ケアマネは、社会資源に関する知識と相談援助職の技術を用いて利用者が問題解決できるよう援助する《脇役》で、利用者の役割はケアマネの知識技術を借りながら、自分の生活の質《QOL》を高めるためにどのようなサービスを利用すればよいか判断する《主人公》なのです。

よいケアマネを選ぼう ～選ばれるケアマネになるために～

講 師 徳島県療養病床協会
会 長 武久 洋三 氏

「介護保険はオレンジジュースではない」という文言は、武久会長が介護保険に関する数々の講演のなかで繰り返し言われてきたことです。その言わんとすることは、利用者(要介護者及び要支援者)がこの事業所のこのサービスが使いたいと希望しても、担当のケアマネジャーがケアプランに盛り込んでくれないと利用者の希望通りにはならないという意味です。そこで介護保険制度の開始からもうすぐ5年を迎える今、利用者自身が自分の眼で、自分の為になるケアプランを立ててくれるケアマネジャーを見極めて選ぶ必要性が出てきます。

会長が提言するよいケアマネジャーの10か条は普通の人間として、専門職として当然のこともあれば日々研鑽、努力しなければ維持できない項目もあります。また、ケアマネジャーだけでなく主治医意見書を担当するかかりつけ医にも同様のことが求められています。その他、栄養指標値と痴呆との関係についてや平成18年4月の制度改正で実施される「新予防給付」など盛りだくさんな内容で講義されました。制度開始当初は介護保険の仕組み自体を納得できない利用者が多いなか、漫然と御用聞きプランで凌いできたケアマネジャーもそろそろ真剣に利用者のことを第一に考えたプラン作りに取り組みなければ淘汰される時代になってきたと感じました。

今回の講座には専門職ばかりでなく、一般県民それも比較的高齢者の参加も多数あり、武久会長のユーモアを交えた講義に笑い声が上がったり、大きくうなずき納得する様子が見受けられました。

広報委員 三宅 和美